



上川井だより

1月号

平成 30年 1月9日
横浜市立上川井小学校
校長 山田 アイ子

「 夢や目標をもって 」

校長 山田 アイ子

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。横浜では、晴天に恵まれ、穏やかな新年でしたが、日本海側では、大雪のため日常生活に大きな影響が出ているとのニュースを、毎日のように目にしました。私は新潟県上越市出身なので、雪といたら「克雪」の文字を思い浮かべるほどですが、横浜の子どもたちにとって、雪は楽しみの一つようです。今年は、雪遊びができるほどの雪が降るでしょうか。担任をしていた頃は、雪が降ろうものなら、朝から雪合戦でした。担任への日頃の恨み？をはらすかのように、子どもたちは遠慮会釈なく、集中攻撃をします。こういう時に、抜群のチームワークを発揮するのは何故でしょうか。靴下も手袋も、びしょびしょになるほど遊びました。ストーブの囲いの金網に、濡れた手袋や靴下を干したり、下着まで濡れて、仕方なく半袖の体操着になっている子もいたりして…今では考えられない懐かしい光景です。

日本海側の豪雪のニュースを見ながら、そんな昔を思い出しつつ、今年も箱根駅伝の応援に、権太坂に出かけました。お雑煮を食べ、箱根駅伝の応援に行く、そうすることで新しい一年が始まり、今年も無事に一年が過ごせるように思えるので、自分自身のお守りになっているのかもしれない。

今年の箱根駅伝では、走り終わった選手の言葉に感動しました。ある選手は「箱根で成長してきた。これからだぞと自分に言い聞かせたい」と、話していました。この選手は、陸上競技は箱根駅伝で終わり、春からは会社員になるのだそうです。

また、ある選手は「小学生のときから箱根に出ることが、憧れであり夢だった。次の夢に向かって頑張るぞ」と、笑顔で力強く話していました。この選手も陸上競技は、箱根駅伝で終わりにするのだそうです。

「緊張感は、必ず次のステップに生かせる」と話した選手は、これからも、走り続けると話していました。緊張感があるから成長する…子どもたちにも通じる言葉だと思います。

私は箱根駅伝を応援しているというよりも、応援することで、私自身がパワーをもらう…そんな思いをもっています。活躍した選手だけでなく、襷が繋がらなかった選手や普段の力が発揮できず、チームのブレーキになってしまった選手など、悔しい思いをした選手が気になります。ちゃんと立ち直っただろうか…と、親のような気持ちになって、勝手に心配してしまいます。翌年、その選手が活躍すると本当に嬉しく、ほっとすることが何度もありました。何位であっても、悔しい思いをした結果になったとしても、箱根を走ることができたことに、誇りを持ってほしいと願うばかりです。

2018年に本校は「独立50周年」を迎えます。この節目の年も、子どもたちがたくさんの経験をして、一人一人が自分のよさに気づき、夢や目標をもって、今の自分にできることを頑張り、生き生きと生活できる一年にしたいと思います。教職員一同、気持ちを一つにして取り組んで参ります。どうぞ、本年も保護者の皆様、地域の皆様のご支援をいただきますようお願い申し上げます。